

津波に強く福祉充実の葉山を！

津波対策の見直しに動く 県内自治体が見直しに動く

平塚・横浜 災害マップ作成
県内自治体 対応急ぐ
津波対策見直し

東日本大震災の大津波で多大な被害を受けたが、大半は、震度6強の地震によって引き起こされた。しかし、震度7強以上の地震では、津波の被害がほとんどなかった。これは、津波の予測が正確で、その影響を避けるための対策が効果的だったからだ。一方で、震度6強以下の地震では、津波の被害が大きかった。これは、津波の予測が正確で、その影響を避けるための対策が効果的だったからだ。

津波対策の見直しを報じた朝日新聞（4月17日号）

東日本大震災の大津波で甚大な被害が発生し、これを教訓に県内の自治体も津波対策の見直しに動き出しました。関東大震災では、死傷者76人、家屋被害415戸、漁船被害14隻と大きな被害にあった葉山町。現在、葉山町の対策は最大津波高5・73mを想定したものになっていますが、再検討が必要です。

全長約4キロの海岸沿い

一津波対策は急務！

地震予知連絡会の島崎邦彦会長は、「三陸沖の想定の枠組みが根本から間違っていた」「海底の動きを詰め切れていなかつた」と述べ、今後、全地球測定システム（GPS）を増やし観測を強化しなければならないとしています。



真名瀬漁港

葉山町の地震被害想定は、季節は冬、発生時刻は午後6時と想定しています。しかし、夏には、多数の海水浴客が訪れており、監視・情報伝達・避難誘導などの迅速な対応が重要です。

万全の体制を

被害想定を厳しくし

津波の遡上対策、 避難場所と道路の整備

東日本大震災では、想定外の津波高で、街がいたるところで水没しました。

葉山町には森戸川と下山川の2河川があり、津波の遡上対策も重要です。また、一時避難所として堅固な近隣住民避難協力ビルの拡大や、身近な高台への避難経路の整備なども急がれます。

県が想定する今後の大地震と津波被害（県調査報告書より）

想定地震	第1次波到達時	最大津波高
東海地震 (M8級)	約30分後 警報間に合い 避難に問題なし	最大約3メートル
南関東地震 (M7.9級)	直後 警報間に合わず 季節によっては 多数の被災者	真鶴半島と三浦半島の 南西岸付近5~6メートル 相模湾2~3メートル
神奈川県西部 地震(M7級)	三浦半島、湘南地域は 10~20分後 警報間に合わず	真鶴半島と三浦半島の 南西岸付近3~4メートル 横須賀、三浦地域で浸水

※神縄・国府津—松田断層帯地震(M8級)については「大きな津波が発生する可能性がある」としている。

日本共産党